



2017 全日本 ARDF 競技大会開催される

2017 年 11 月 4 日・5 日、徳島県勝浦郡勝浦町

2017 全日本 ARDF 競技大会が 11 月 4 日と 5 日の両日みかんとお雛さまの里、徳島県勝浦郡勝浦町で開催されました。大会にはエントリーいただいた、延べ 215 名（クラシック競技 3.5MHz 帯部門=105 名、同 144MHz 帯部門=110 名）に加えてお隣の韓国からも 5 名の選手が参加されました。四国地方での全日本大会の開催は 2011 年の香川大会に続き 2 回目となります。2 日間の大会は天候にも恵まれ、おかげさまで良い大会となりましたが、2017 年の全日本大会を徳島で、と言うお話をいただいた時は正直言って不安でした。

徳島県は ARDF の歴史が浅く、競技人口も少ない事が一番の理由でした。支部大会や地方大会は経験していましたが、全国大会ともなるとローカルルールも適応されず、単にそれらのスケールアップと言う訳にはいかないだけになおさらでした。

そんな徳島の中でも「熱心に ARDF を広めよう」という OM は何人かいて「TX を見つけた時の何とも言えない嬉しさを少しでも知らない人たちに伝えよう」という熱意は全国レベルにも負けていなかった気がします。

そんな仲間たちの姿が「今、徳島が熱い」と選考委員の方には映ったのかも知れません。

お受けするかどうかは、県支部の中でも迷いました。

そんな時、我々の背中を押してくれたのが、香川をはじめとした愛媛、高知の地方本部の仲間たちでした。全

日本大会に出場したら、世界大会や IARU の第 3 地域の大会に選抜されるほどの実力者たちが、一致団結して徳島をサポートするからと言ってくれました。涙が出るほど嬉しかった事を思い出します。

かくして JA5SUD 森田耕司四国地方本部長を中心とし 4 県の支部長、各支部メンバーで構成した 2017 全日本 ARDF 競技大会実行委員会が誕生しました。

実行委員会の最初の仕事は、昨年 10 月に新潟県新発田市で開催された全日本大会の視察でした。

大会をお手伝いしながら少数精鋭方式の無駄を省いた合理的な運営を学びました。

「徳島でもやろう」という点がいくつもあり、皆さんには親切にいろいろ教えていただきました。

この頃は「まだ 1 年以上ある」と思っていました。振り返れば 1 年はアツという間でした。

思うようにメンバーが集まらずに時間だけが過ぎていきました。

そんな時は誰かがフォローしてくれる形で、寒い日も暑い日も遠路勝浦の現地に足を運んでくれました。

また全国からも、さまざまな形でサポートをいただき準備は着実に前に進んでいきました。何より勝浦町が町を上げて協力くださり、地域の方々がみな親切だったのが幸いでした。

そしていよいよ大会は本番を迎えたのでした。





【11月4日(土)・3.5MHz 帯部門】

大会初日の11月4日はクラシック競技3.5MHz帯部門がおこなわれました。集合場所となった勝浦町の農村環境改善センター駐車場には、例年のごとく早朝から選手の方々が次々に到着して、大会のムードが高まります。JR 徳島駅からの送迎バスも無事到着し、定刻通り開会式が始まりました。

大会会長のJG1KTC 高尾義則JARL会長、大会実行委員長のJA5SUD 森田耕司四国地方本部長の挨拶に続き、地元勝浦町の中田丑五郎町長、JA1HQG 有坂芳雄JARD顧問から来賓のお言葉をいただきました。

その後地方本部対抗のトロフィー返還を経て選手宣誓へと続き、徳島の若手を代表してJJ5GVX 板東麻耶さんとJJ5MAQ 岡龍駿君が立派に務めました。

さらに審判長の注意、記念撮影と続き、いよいよ競技開始となりました。

正午には第1組が予定通り出発しました。心配したTXのトラブルもなく、順調に電波が出ている事が確認できてひと安心です。

3.5MHz帯の組分けはA・Bの2組に分け1組5名ずつの10名同時スタートにしました。

正直、コースに大差はありませんでしたが、終了時間を視野に入れて時間短縮を目的とした苦肉の策でした。

12時50分には最終組がスタートしました。

勝浦町は山岳地域でアップダウンが多く、選手の皆さんは苦勞されたようですが、さすが全日本大会です。スタートから1時間ほどで、もう帰還選手がありました。

14時50分にTXを停波し競技終了。遭難者もなく全員の帰還が確認されホッとしました。

予定より少し早く表彰式が始まり、各部門の上位入賞者には賞状とメダルに加え、徳島名産の「竹付きちくわ」が副賞として贈られました。

今回、我々のスタッフが考え抜いた新しい方式の表彰式を試みましたが、時間短縮を前面に出した事から少々課題も残したようです。

【10月5日(日)・144MHz 帯部門】

この日、勝浦町長はお見えになりませんでしたが、昨日同様に開会式と記念撮影がありました。

クラシック競技144MHz帯部門の組数は15組です。第1組のスタートは10時、スタート場所は勝浦町民体育館の西側です。

初日の3.5MHz帯と違って高低差に加えて、山岳反射が選手を苦しめる事になるとの予想です。この日もTXは正常に鳴動をしているのに安心しました。11時10分最終組がスタートしていきました。

今回は両競技とも給水ポイントが2カ所あったことが、





結構ヒントになったようですが、連日5番TXに悩まされたという声が多くあり、全国のエキスパートたちを混乱させたことにニヤリとするスタッフもいたようです。

13時10分TXが停波し競技は終了しました。リタイヤした選手はあったものの全員無事の帰還を確認し、スタッフ一同胸を撫でおろしました。審判会議、結果発表のあと、表彰式に先立ち、お楽しみイベントを企画しました。

何か全国の皆さんに徳島らしいお土産を考えた末の「阿波踊り」に、地元勝浦町が誇る「やっこ連」(阿波踊り協会所属)の皆さんが協力してくれました。

改善センターのホールは大盛り上がりで最後はスタッフや選手の皆さんも加わっての大乱舞に主催者としても嬉しいひと時でした。

その後、表彰式に移り前日同様の時間短縮方式で授与をおこないました。

JG1KTC 高尾義則 JARL 会長、JG2GFX 種村一郎 JARL 副会長・ARDF 委員長中心のプレゼンターターによる個人表彰のあと、JA1HQG 有坂芳雄 JARD 顧問、伊藤純管理部長による JARD 杯の授与が学校対抗の入賞校に贈られました。

その後、韓国からの選手に特別賞が授与され、最後にアイコム(株)の稲田定男部長から地方本部対抗の JAIA 杯が関東地方本部に贈られました。

閉会式の最後は全日本 ARDF 競技大会の横断幕と大会印が、JA5SUD 森田耕司 JARL 四国地方本部長から来年の開催地を管轄する北海道地方本部の JH8HLU 正村琢磨本部長に引き継がれ、2017 全日本 ARDF 競技大会は無事すべての日程を終了しました。

大会期間中は会場の農村環境改善センター内の一室に大会の特別記念局 8J5ARDF が設置され現地から全国に向けて大会案内が発信されました。

今回の大会の開催にあたり、徳島にお越しいただく交通の便が悪くご参加の皆様にはご不便をお掛けした事と思ひます。

また何かと不慣れな点も多く、選手の皆様にはご迷惑をお掛けした事も多々あったかと思ひますが、誌面をお借りしてお詫び申し上げます。

最後に本大会期間中、大きなトラブルや事故・怪我もなく無事に終了できましたことを、参加選手の皆様方、大会関係者、地元住民の皆様方、および関係施設に対して厚く御礼申し上げます。

なお、本大会の様子は、JARL 徳島県支部ホームページでも公開させていただいておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.jarl.com/tokushima/>

レポート：2017 全日本 ARDF 競技大会実行委員会

JA5FUC 安部雅則さん

